発掘現場公開資料
2004年5月23日　13時～16時

平野遺跡

遺跡位置図（1/25,000）

所 在 地	鈴鹿市国府町地内
調査目的	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間	2004年4月7日～5月18日
調査面積	242㎡
調査主体	鈴鹿市

はじめに

平野遺跡は鈴鹿川右岸の半島状に延びる河岸段丘の中ほどに位置します。国府町を中心とする鈴鹿川右岸の段丘上は、市内でも有数の遺跡密集地域で、国史跡の西ノ野１号墳（通称：王塚古墳）を中心とする西ノ野古墳群や保子里古墳群の存在は、この地域に鈴鹿川流域の盟主的な首長がいたことを示しています。

また、国府という地名のとおり、古代の伊勢国の役所である「国府」の推定地でもあります。奈良時代の「国府」は広瀬町の長者屋敷遺跡であることが確認済みですが、その後、移転し国府町に「国府」がおかれたと考えられています。

その後、中世には鈴鹿川右岸の半島状に延びる河岸段丘の先端に平野城が、また、基部には国府城が置かれるなど鈴鹿川流域の戦略上の拠点でありました。

平野遺跡周辺では、国府新町の中尾遺跡で平成９年に調査が行われ、鎌倉時代の建物が確認されています。また、富士遺跡でも、平成９年に調査が行われ弥生時代の方形周溝墓と考えられる溝が確認されました。

平野遺跡は、縄文時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されていますが、昨年度、今回の調査区から北東に約 200m の地点で調査を行い、中世の柱穴のほか土坑（穴）・溝にともない、山茶碗・山皿・青磁・常滑焼などの土器が出土しました。また、須恵器・土師器など古墳時代から奈良･平安時代の土器も出土しています。

今回の調査は平野遺跡の第二次調査となります。

調査の成果

今回の調査で検出した主な遺構は、方形周溝墓１基、掘立柱建物１棟の他に、奈良時代の土坑（穴）、鎌倉時代の溝と柱穴を確認しました。柱穴は多数検出しましたが、残念ながら建物と確認したのは１棟だけでした。

主な遺物は、方形周溝墓の溝から、ほぼ完全な弥生時代中期の壺が４点出土しました。また、土坑９からは奈良時代の鍋が、柱穴からは鎌倉時代の甕の口縁部が出土しました。

方形周溝墓１

方形周溝墓とは、中央に死者を納める穴を掘り、その周りを方形状に溝をめぐらせた弥生時代の墓のことです。

今回、検出した方形周溝墓は区画内に土盛りが残っており、周辺より約 0.2 m 高くなっていますが、残念ながら死者を納めた穴は確認できませんでした。しかし、溝からはほぼ完全な弥生土器が４点出土しました。

北側の溝からは大型の壺（写真１）が出土しました。南側の溝からは脚のついた壺（写真２）が、西側の溝からは壺（写真３・4）が２点出土しました。西側の溝の２点つの壺は、ほとんど同じ大きさをしています。

これらの土器から、この方形周溝墓は弥生時代中期（今から約 2,000 年前）のものではないかと思われます。

掘立柱建物２

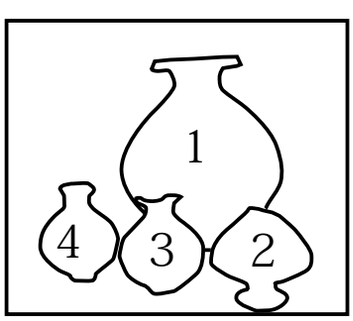
北東から南西方向に２間（柱と柱の間）以上×北東から南西方向に２間の調査区の外へ広がる掘立柱建物です。柱の間は桁（けた）行きが 2.7 m、梁（はり）行きが 2.4 mで、今回確認できた建物部分は 2.7 m以上× 4.8 mとなります。柱の掘り方の大きさ（柱を据えるための穴）は約 0.5 m、深さは 0.5 mあります。

この掘立柱建物は奈良時代ごろの建物であると思われます。

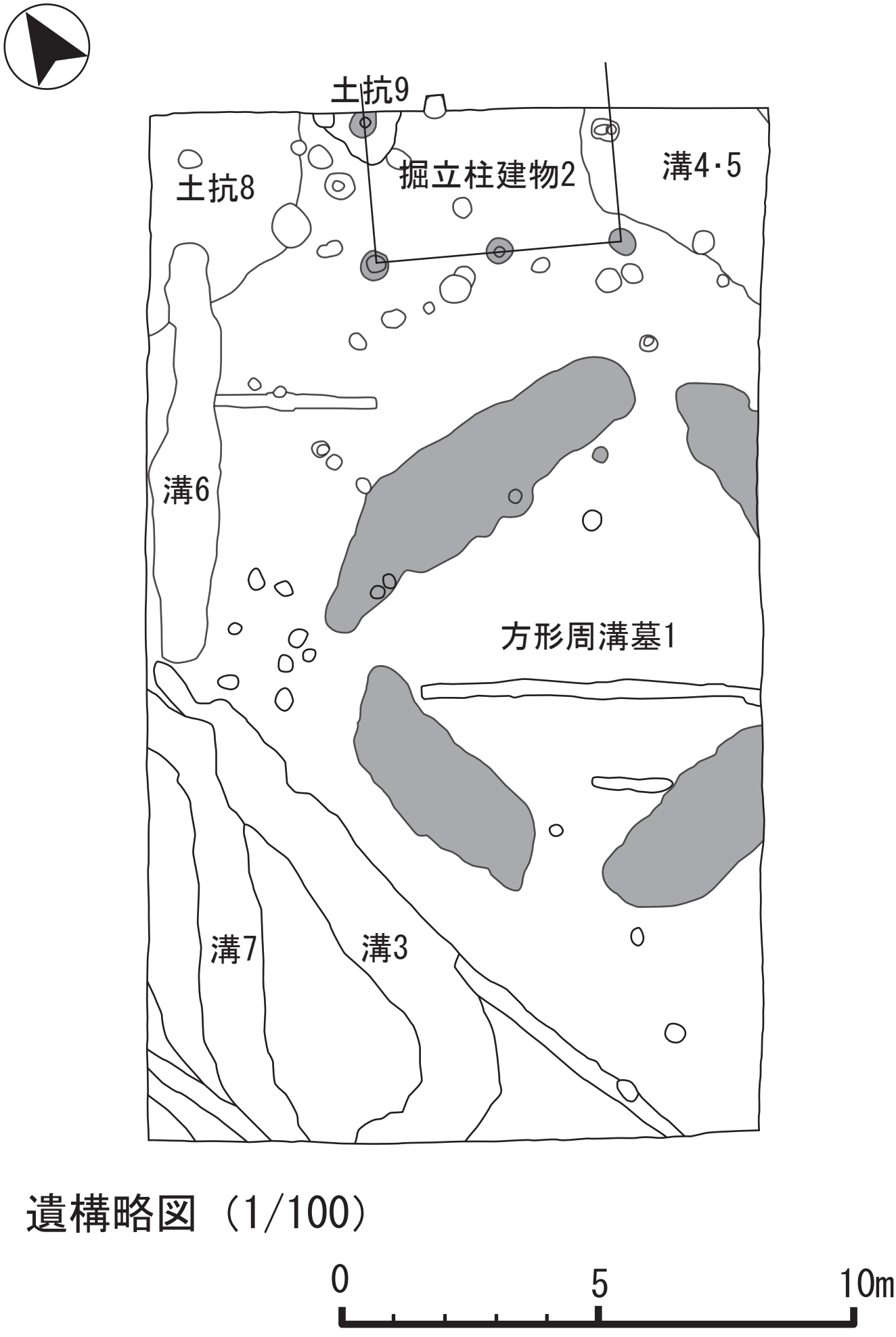
まとめ

弥生土器（弥生）、須恵器（古墳）、土師器（奈良）、灰釉陶器（平安）、山茶碗（鎌倉）と各時代の土器が出土したことから、この周辺では弥生時代から連綿と人々が活動してきたということが分かります。

方形周溝墓は単独ではなく、いくつかが集まって群を形成する傾向があることから、この周辺には、まだ同様の墓が存在するのではないかと考えられます。



弥生土器写真



遺構略図（1/100）